

「さあもう支度はいいんですか。じきサウザンクロスですから。」

無責任 四十四

赤い列車に乗って

清水らくは

少しお話ししてもいいですか
貴方はどこに向かっていますか
私は榎原神宮行に乗ったつもりが
どういわけやら銀河鉄道でした

郡山城が見えるはずのところ
月を通り越しました
さすがに私も気づいて
地球を見下ろしました
言うほどには青くなかったです

これから向かう星々のことは
何も知らないままですけれど
少しだけお時間いただけのなら
父のことなど話してよいでしょうか

父はずっと生身のままで

白い目で見られたりもしました
三十年ぶりにインフルエンザに
かかった日本人として
少し話題になったりもしたんですよ
そんな父は宇宙を知らずに
十年前に亡くなりました

銀河鉄道が西大寺から出る時代が
娘の私を宇宙へ連れて行くなんて
とつてもとつても不思議ですね
でもひとつ心残りなのは
生きている間に乗りたかった

ああ火星の駅が
もうすぐそこですね
私は地球に戻ります
ぜひまた会いましょうね

消えた題名

浮島

歌声が法律である星にたつ死刑のため
のボーイソプラノ

琥珀色の海、夕暮れの駅にたち水没都
市の声を聞く星

トビウオの死ぬ砂漠では駅長の目をぜっ
たいにみてはいけない

みたされたブリキの如雨露ほしぞらに
積もるひかりの雪のはなしを

みずうみの影にはびこる星々の死よ
鉄道はくらきをはしる

無責任の配布先 「詩的境界線群」 <http://borderspoem.seesaa.net>

「けれどもほんとうのさいわいは一体何だろう。」ジョバンニが云いました。

「僕わからない。」カムパネルラがぼんやり云いました。

無責任44号

責任者 清水らくは

副責任者 浮島

発行日 2015年10月1日

発行元 無責任.zone